

平成 19 年 2 月 28 日

県 内 景 況

株式会社 鹿 児 島 銀 行

株式会社 鹿児島地域経済研究所

最近の県内景況は、投資関連に明るさがみられるものの、生産活動や観光関連は一進一退で、個人消費は暖冬の影響で盛り上がりを欠いており、全体では足踏みが続いている。

生産活動は、電子部品が弱含み、飲食料品も伸び悩んでいる。個人消費関連は、百貨店・スーパー売上げ、新車販売ともに盛り上がりを欠く。投資関連では、民間建築工事、住宅着工、公共工事ともに前年を上回った。また、1月の観光入り込み客数は主要3地区全てで前年を上回った。

【生産活動】...一進一退

電子部品関連は、IC生産がやや弱含んでいる。カラーLCD(液晶ディスプレイ)は、国内外での受注競争激化により伸び悩んでおり、PDP(プラズマ・ディスプレイ・パネル)も在庫調整により生産水準が低下している。

1月の**生コン**生産は、2か月連続で前年を上回った。

1月の**紙パルプ**生産は、前年比4.4%増となった。

木材関係は、住宅建設向け需要が弱く、低調に推移している。

1月の**大島紬**生産反数は、前年比2.8%減となり、減反基調に変化は窺えない。

焼酎は、生産および出荷の増勢テンポこそ鈍化しているものの、引続き高水準で推移している。

かつお節関係は、原料かつおの浜値が高止まりするなか、生産は調整局面に入っている。

【畜産関連】...豚および鶏肉相場が弱含み

肉用牛（和牛）の枝肉相場は、小売段階の販売伸び悩みを受けて供給も増えないことから弱持ち合いとなっている。一方、子牛価格は依然高値で推移している。豚肉およびブロイラー相場は、暖冬により鍋物需要が盛り上がらないことから弱含み。また、鶏卵相場は全国的な生産調整により堅調に推移している。

【消費関連】...盛り上がりを欠く

12月の百貨店売上げは、暖冬の影響で衣料品の動きが鈍く、5.3%減と9か月連続で前年を下回った。一方、12月のスーパー売上げは、3.8%減と3か月連続で前年を下回った。1月以降の大型小売店販売も、暖冬の影響で盛り上がりを欠いている。

1月の乗用車新車販売台数は、14.6%減と12か月連続で前年を下回った。車種別にみても、普通車、小型車ともに7.5%、17.7%の各減となった。一方、軽自動車は5.0%増と3か月連続で前年を上回り、高水準で推移した。

1月の家電卸売上げは、地上デジタル対応の薄型テレビ、洗濯乾燥機の販売が伸び、6か月連続で前年を上回った。

【観光関連】...一進一退

1月の離島を除く主要ホテル・旅館の宿泊客数は、前年比4.2%増と前年を上回った。地区別にみても、鹿児島、霧島、指宿地区はいずれもプラスとなった。一方、種子島・屋久島地区は、マイナス幅は縮小したものの、3か月連続で前年を下回った。この間、主要観光施設入場者数は、一部を除き前年を上回った。

【投資関連】...順調

1月の公共工事は、件数、請負金額ともに前年を下回った。一方、民間建築工事は棟数、床面積、工事費ともに2か月連続で増加し順調に推移している。

12月の新設住宅着工戸数は、前年比40.8%増と4か月連続で前年を上回った。利用関係

別では、持家が 6.2%減となった一方、貸家が 17.2%増となり、分譲もマンション着工により約 9 倍となった。

1 月の**主要建設資材**卸売業者の売上げは、3 か月連続で前年を上回った。

【貿易関連】...輸出の前年割れ続く

12 月の**輸出額**は、半導体等電子部品が 3.4%減、液晶表示板等の科学光学機器が 31.0%減、タイヤ・チューブが 27.7%減と主要品目が総じて前年割れとなり、全体では 12.9%減となった。また、**輸入**は穀物及び同調整品が 34.4%増、原油及び粗油が 13.7%増となったことから全体では 12.6%増となった。

【雇用情勢】...改善一服

12 月の有効求人倍率は 0.61 倍で前月と同水準となり、雇用情勢の改善には一服感がみられる。

【金融情勢】...堅調

資金需要は、住宅ローンが堅調に推移している他、企業の設備資金にも底入れ感が窺える。

【企業倒産】...負債額が大幅増

1 月の**企業倒産**は、件数は 15 件と前年同月（18 件）を下回ったが、負債額は大型倒産の発生により 60 億 8,300 万円と前年同月（48 億 1,200 万円）を大幅に上回った。

以上

【本件に関するお問い合わせ】

(株)鹿児島地域経済研究所 (099-225-7491)